

国土交通大臣賞
「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名
鹿島建設株式会社 東京建築支店
(仮称) 晴海二丁目マンション C1 街区新築工事

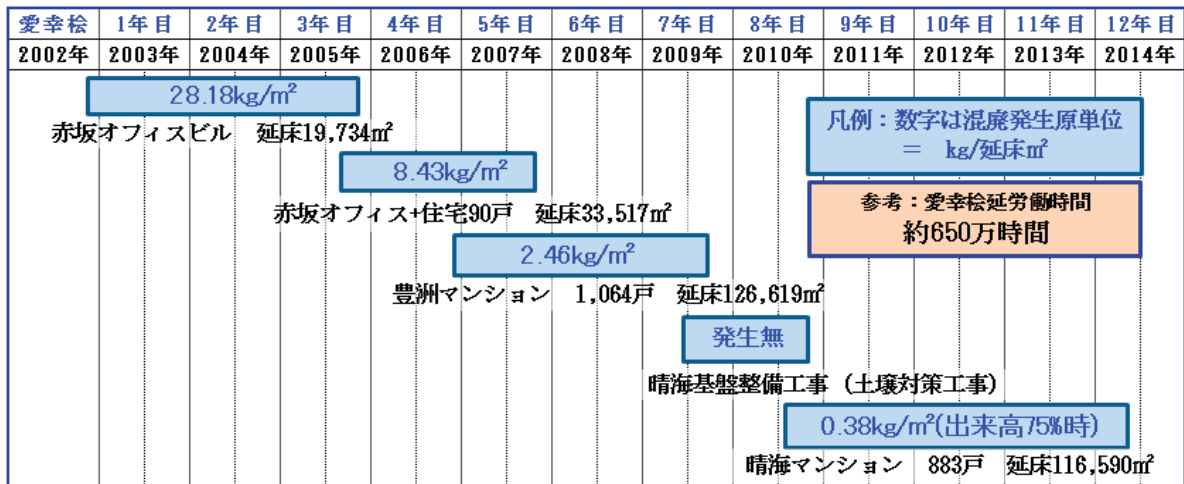
所在地
東京都中央区

受賞テーマ
10 年間にわたり活動する継続型職長会『愛幸検』と元請が一体となった 3R 運動の推進

今から約 10 年前。初所長として赤坂のオフィスビルの現場を始めるにあたり、同工事の現場所長は考えた。
「建築現場は、着工後工事を進めて行く中で、素晴らしい人間関係や仲間意識が生まれ、それは非常に高いレベルで環境を守ることに對する活動や、安全・品質確保などといった活動も積極的に行われる。しかし、いざその現場が終了すると、職長たちがバラバラになってしまい、せっかく 100% 創り上げられた組織も次の現場では、またゼロからスタートしなければならない。単品単一現地生産という建設現場における宿命ではあるが、何とか職長会を継続していくことで、せめて 70% や 80% から、次の新しい現場を始められるような仕組みを創り込む事は出来ないだろうか？」

現場を運営するのは元請であり、元請の明確な指示のもとに現場は生産活動を行うが、その現場自体は、個々の職人がさまざまな成果物を創り上げて行く。その職人の長である職長の集まりこそが、現場運営を最も大きく左右する組織であり、その組織＝職長会を、現場が変わっても有機的に継続させることを目指し、継続型職長会となる、「愛幸検」(あいこうかい)を立ち上げ、この組織が中心となり次世代に引き継ぐ地球の環境を共に守っていく活動を開始した。

「人生明るく 人に優しく 心愛ふかく 共に頑張ろう」を、スローガンとして、愛幸検は、2002 年の 12 月に発足した。それから今日に至る愛幸検施工現場は以下のとおりである。



愛幸検が発足した際、まだ建設現場におけるゼロエミ活動があまり一般的ではない中、「これからの建設現場は、いかに環境との関係を持ち地球への負荷を減らしながら工事を進めて行くか？」それには、最先端作業員に至るまでの強いメッセージ性と共感を得ることが重要であり現場運営の根幹として環境を捉えることに主眼を置きゼロエミ委員を設けた。

これは、ゼロエミッション導入時の学習から、分別の確認、最先端作業員への指導をはじめとする環境に関する管理や活動の推進を最大の目的とした。活動を複数現場にわたり継続することで現場全体での知識の輪が、どんどんと広がるとともに、後半のマンション新築工事の二現場では、千戸近い集合住宅特有の問題点を抽出し、早期の段階から解決に向けた仕組みを、愛幸検と共に創り込んでいくことにより、工事出来高 75% 時点で混廃発生原単位 0.38kg/m²。

この状況で推定すると、竣工時点では概ね 0.70kg/m²以下になると考えられ、驚異的な成果を上げることが出来ると確信している。



おそろいの愛幸検トレーナーで記念写真！